



中部農林だより

No. 32(令和3年2月)
宮崎県中部農林振興局
宮崎市橋通東1-9-10
(電話)0985-26-7278

元気の芽

悲願達成！日本一の干し大根と大根やぐら 日本農業遺産に認定

令和3年2月19日、田野・清武地域の日本一の干し大根と大根やぐらが日本農業遺産に認定されました（「田野・清武地域日本農業遺産推進協議会」申請）。平成29年4月に前身の「日本一の干し大根と大根やぐら日本農業遺産推進協議会」が発足してから、実に3年越しの悲願達成です。

今回認定されたのは、『宮崎の太陽と風が育む「干し野菜」と露地畑作の高度利用システム』です。

このシステムは、耕畜連携により土づくりを行いながら、大根等の露地野菜を干し野菜として加工・販売し、収益を安定化させる約100年前から受け継がれるものです。乾燥した冬の西風を利用して大根を干すために組まれる「大根やぐら」が特徴的な冬季景観を作り出しています。



グッドデザイン賞HPより

農産物【日本一の干し大根と大根やぐら】

「日本一の干し大根と大根やぐら」は、2020年度グッドデザイン賞を受賞し、さらに受賞作品の中で特に高い評価を受けた100件「**グッドデザイン・ベスト100**」にも選出されています。

日本農業遺産とは・・・

日本農業遺産は、国連食糧農業機構（FAO）による世界農業遺産の国内版として、平成28年度に農林水産省が制定した制度です。令和2年4月現在、15の地域が認定されており、おおむね100年以上の歴史があること、それが現在も営まれていることが必要です。

九州地方では、同時に認定された日南地域と並んで初の認定なんだ。



認定の概要

田野・清武地域は、鰐塚（わにつか）山の麓に豊かで広大な畑を有し、日照時間に恵まれ、夏は雨が多く、冬は冷たく乾いた「鰐塚おろし」が吹き付けます。この恵まれた風土を最大限に活かして、古くから時間と手間暇をかけた「大根やぐら」による干し大根生産が行われてきました。宮崎市は、干し大根の生産量が日本1位です。

干し大根を乾かす「大根やぐら」は、幅6m、高さ6mが標準的ですが、長さは最大100mを超える大きなものもあります。

材料に竹を使って軽量化したり、雨の日はやぐら全体をブルーシートで覆ったり、寒い日はやぐらの中でストーブを焚いたりするなど、当地域に合わせた改良と工夫を積み重ね、現在の姿になりました。



当地域では、冬場の干し大根栽培を中心に、夏はかんしょやさといも、葉たばこを栽培するといった高度な土地利用体系ができていて、に加えて、地域の畜産農家が乾いた大根葉を牛のエサとして与える「耕畜連携」の好循環も確立されています。

さらに、近年では、有機栽培や自然農法に取り組む若い農業者が現れたり、温暖な気候が多く、越冬ツバメの生息を支えたりするなど、生物多様性の面からも高度な生態系が育まれている地域です。

また、大規模化やハウス栽培等による効率化が進む近代農業の中にありながら、当地域では、干し野菜の伝統技術を活かした高度な土地利用体系によって「ゆとり」のある家族農業が実現されていることも大きなポイントといえます。

このように、大根やぐらを中心とした、高度な畑地野菜栽培の歴史と文化が全国でも類を見ないランドスケープであるとして高く評価されたものです。



江戸時代から100年以上の歴史を経て、「干し野菜」の一大生産地になったんだね。

江戸末期 甘藷栽培、干しいも生産開始
（『清武町史 通史編 上巻』）
1906～1907年 愛知県から千切大根の技術を導入
（『宮崎の野菜史』）
1918年 千切大根生産開始（『田野町史 下巻』）
（メリット：保存性、速乾性、流通がしやすい）
1951年 干し大根生産開始
（メリット：漬物加工業者との協働）
現在 大根を主とした「干し野菜」の一大生産地

千切大根：大根をスライスして干したもの
干し大根：一本丸々干したもの

干すと
GABAが
約7倍に！



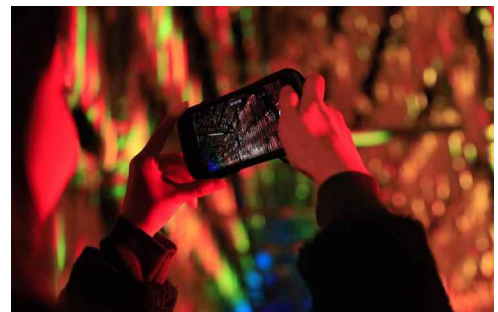
今後の展開

日本農業遺産は、認定されてからが本番ともいえます。地域の価値が認められたことで、地域の自信と誇りが醸成されるとともに、農産物のブランド化や観光客の誘致などを通じた地域経済の活性化につながっていくことでしょう。そしてさらには、地域活性化の機運が周辺地域へ次々と波及していくことも期待されます。

このためには、地域で定めたいわゆるアクションプラン（保全計画）に基づき地域の生産者や住民が団結して活動を継続し、次の世代にバトンを引き継いでいくことがとても大切です。



これから100年先も、干し大根の伝統技術が**地域の宝**として守られていくんだね！



大根やぐらのライトアップ



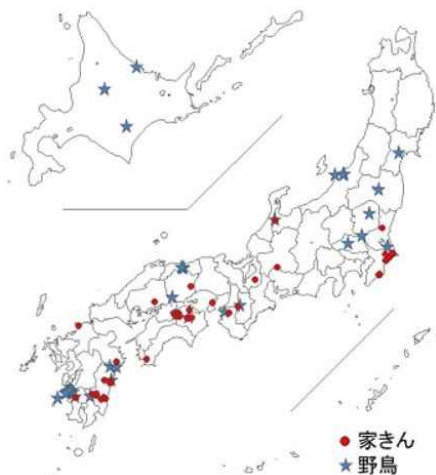
農業体験

高病原性鳥インフルエンザ発生

11月以降、国内において高病原性鳥インフルエンザが多発する中、県内でも12月に9例、1月、2月にそれぞれ1例の計11例が発生しました。

中部管内でも、宮崎市において、12月14日に県内6例目となる疑似患畜を確認(採卵鶏 約12.6万羽)し、同19日に県内8例目となる疑似患畜を確認(種鶏 約3.4万羽)しました。

疑似患畜確定後は、県や市、JA職員、陸上自衛隊の災害派遣隊員及び地区の建設業協会等が連携・協力し、殺処分、埋却等の作業や農場内の清掃・消毒等を含めた一連の防疫措置を行いました。



農林水産省HPより

防疫作業従事者のコメント

- 補鳥で鶏の羽が体にあたり、痛い思いもしましたが、ガスを注入して鶏が徐々に弱っていくのを感じたときは、とても心苦しくなりました。
- 入庁後、初めての殺処分作業でした。鶏舎の中では、他の方々と連携しなければ、速やかな殺処分が行えないため、連携の重要性等多くのことを学ぶ機会となりました。
- どの現場も極寒でした。作業時は体を動かすため寒さは感じませんでしたが、休憩時間はとても寒く、ストーブと温かいコーヒーに救われました。
- 今後、発生しないことが1番の望みですが、もしも発生してしまった際には、今回の経験を活かして作業できたらと思います。

現地対策本部の運営

鳥フル発生の第一報が入ると、中部農林振興局に局長を本部長とする現地対策本部を設置し、埋却、動員サポート、消毒ポイントの設置・運営等の業務を行いました。

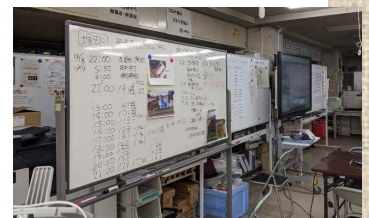
また、市に情報連絡員を相互に派遣したほか、ホワイトボードに1時間毎の殺処分の進捗状況、埋却地の採掘状況、埋却作業の進捗状況等の情報を書き込み、テレビ会議等を通じて、随時県対策本部や市との情報伝達や共有を行いました。

本部運営班・資材班

本部運営班は、現地対策本部の運営に必要なテレビ会議やホワイトボードを設置し、体制を整えます。

また、消毒ポイントの設置場所が決まると同時に、動員計画を立て、運営に御協力いただく中部地連協や市町、JA等の関係団体への動員依頼や、看板の設置に必要な道路使用許可等の各種申請等を行いました。

資材班は、夜間投光器やコンテナ、テント等のリース資材の手配や、燃料、消耗品等の買い出しを行いました。



本部運営班からのコメント

- 一刻も早く動員のお願いや資材の手配をしたので、消毒ポイントが決まるまでは、時間がとても長く感じました。
- 協力依頼の第一報を入れる時はとても緊張しました。勤務時間外の、また「今晚0時から」のような急な依頼にもかかわらず、動員者の選定や消毒ポイント運営に御協力いただいた皆様に心から感謝いたします。
- 極寒の中、24時間体制で消毒ポイント運営に従事いただき、ありがとうございました。

現地対策本部

現地企画班	現場における防疫方針の立案・進行管理
防疫班	防疫各班の総括
総括支援班	総括支援各班の総括
本部運営班	消毒ポイントの動員依頼、各種申請等
資材班	資材・機材の調達、警備・消毒委託
市町調整班	市町における情報収集
防疫支援班	防疫支援各班の総括
防疫支援企画班	消毒ポイント設置の選定等
埋却班	埋却に係る重機の手配、埋却作業
農場調整班	現地における連絡調整
消毒ポイント設営班	誘導資材(看板等)の作成・設置、運営資材の配置
消毒ポイント運営班	運営資材の供給、撤収時の資材撤去
動員サポート班	受付会場、現地テントにおける動員者のサポート

動員サポート班

動員サポート班は、県、市町村、関係団体、自衛隊等から派遣された多くの防疫作業従事者の方々の、受付会場での受付・誘導、現地テントへの送迎バスの運行管理、現地テントでの防護服の着脱補助、作業内容の説明、飲食物の提供等のサポート業務を行いました。(6例目の動員者数:延べ920名超、8例目の動員者数:延べ540名超)。

寒い中で慣れない過酷な作業を行う動員者の方々が、スムーズに作業ができるように、また、安全に帰っていただけるように、主に普及センターが中心となり、市・保健所等の協力を得ながら、サポート業務に努めました。

動員サポート班の業務は、受付会場の選定、現地テントの設営をはじめ、市や関係者の皆様の御協力なしにはできない業務であり、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



受付会場での受付状況



現地テントでの防護服の着衣状況

動員サポート班からのコメント

- 現地テントの立ち上げ、運営、資材の積み下ろしなど、昼夜を問わない大変な業務でしたが、動員者の方々から感謝の言葉をかけていただいた時には、心身共に癒やされる思いでした。

埋却班

埋却班は、殺処分された鶏や汚染された飼料などを埋却処分するため、感染疑いの段階から、先遣隊としていち早く農場へ乗り込み、埋却箇所の調査・選定、埋却溝の造成・埋却準備、鶏等の埋却作業、埋め戻し、周辺整地から最後の消毒に至る一連の防疫作業を行いました。

これらの作業は、建設業協会の皆様の御理解・御協力なしには出来ないことであり、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

なお、今回は関連農場があったことや場所の制約から、同時に2か所ずつ(合計4か所)の埋却を行ったこと、採卵鶏で殺処分に時間を要したこと等から現地の拘束時間が長く、延べ81名(職員25名、建設業協会56名)が160時間以上に渡り、木枯らしが吹き荒れる現場で懸命に作業にあたりました。

今回、埋却予定地の選定が非常に難航したことや、選定した場所も狭小で様々な埋却物等があり作業の大きな支障となっていたことから、事前に埋却地をしっかりと選定・準備しておく重要性を改めて認識しました。



埋却班からのコメント

- 初めての埋却作業でしたが、作業段取りの大切さ、また建設業協会の方々や畜産職員との連携の重要性を実感しました。
- どの現場も極寒で厚着で臨みましたが、足下からの冷えははどうすることもできず、足用カイロの偉大さを感じました。
- フォークリフトや小型重機の免許取得に興味を持ちました。

消毒ポイント

高病原性鳥インフルエンザが発生した際には、感染拡大防止のため、発生農場から3km以内を家きん等の移動制限区域、3～10km以内を同じく搬出制限区域として、周辺農場に対する移動制限を実施し、消毒ポイントを設置することとなっています。

中部農林振興局では、都城市高崎町で12月3日に発生した3例目以降、最大8か所の消毒ポイントを同時に運営し、制限区域が解除される1月15日までの間、管内市町、JA、NOSAIみやざき、中部地連協等の協力を得て、24時間体制で関係車両の消毒にあたりました。

また、ほっとしたのも束の間、1月31日に10例目、2月7日に11例目が発生したことにより、新たな場所での消毒ポイントを運営することとなりました。



発生疑いから消毒ポイント設置までの流れ

※時間は一例です。

時間	主な流れ
14:00	家畜保健衛生所から簡易検査陽性の連絡
15:00	局の関係職員の招集 市町との情報共有
	陽性確認農場からの制限区域の確認（1 km、3 km、10 km）
	市に1 kmの消毒ポイント選定を依頼
16:00	現地対策本部内で3 km、10 kmポイントの候補地の選定
	市との協議
	↓ 県対策本部との協議
18:00	3 km、10 kmポイント決定
	消毒ポイントの設置作業開始 ・リース品発注 ・動員調整 ・現地でのレイアウト確認 ・誘導看板の手配、設置 ・動力噴霧器、資材等搬入
0:00	家畜保健衛生所でのPCR検査で陽性を確認
	疑似患畜の確定
	消毒ポイントの運営開始



消毒ポイント設置班

今回、10か所の消毒ポイントで、延べ11回の設置・撤去作業を行いました。

当班は、消毒ポイント決定後、直ちに現場に向かい、使い勝手の良いように消毒作業場所やコンテナハウス等の配置を検討した上で、不足する資材の手配、リース品の設置、国・県道等への案内看板設置等を消毒開始予定時刻までに終了させました。

また、消毒作業期間中も、舗装面の傷みなどの問題が発生すれば、昼夜を問わず現場に向かって対策を行う必要があり、気の休まない日が続きました。消毒ポイント撤去後は、必要に応じて補修等を行い、当班の全ての業務が完了します。

消毒ポイント設置班からのコメント

- ほとんどが夜間の作業となりましたが、各地区建設業協会の御協力もいただいたおかげで、速やかに準備できました。
- 急な要請にもかかわらず、対応していただいた宮崎地区、東諸地区建設業協会や各リース会社を始めとした関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

消毒ポイント運営班

運営班の業務は、消毒ポイントに必要な資材を揃えることから始まります。消毒ポイントにコンテナ等が設置される時間に併せて資材を搬入し、ポイントが撤収されるまで、資材の補充を実施し続けました。

消毒ポイント運営班からのコメント

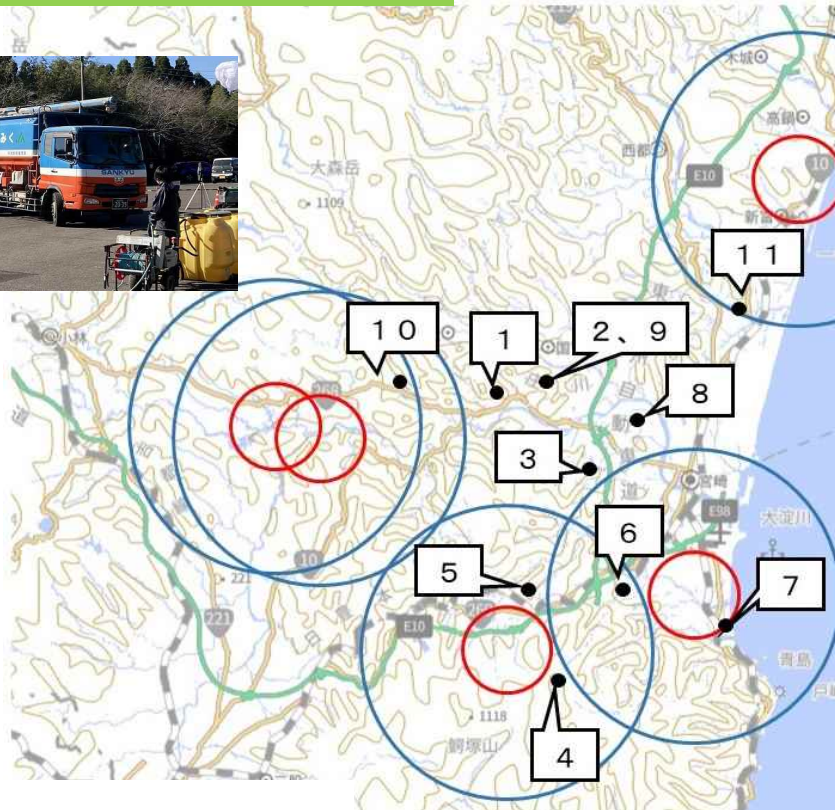
- 資材の中でも1番苦労したのが、動噴や投光器、ストーブ等の燃料の補充でした。JA系統のガソリンスタンドが配達して下さる日は良いのですが、日曜日や年末年始は、運営班が携行缶等を各消毒ポイントに配布して回りました。想定を超えて「燃料が少なくなっている」と電話が入り、奔走したこともありました。
- 消毒ポイント撤収後も、カッパや長靴の洗浄、ゴミの分別等で、局内の皆様に多大なる御協力をいただき有り難く思っております。
- まさに、県、市町、関係団体の全員体制で取り組んだ鳥インフルエンザ対応でした。ありがとうございました。

中部農林振興局の動き

発生月日(確定日)	発生場所	防疫作業 動員者	消毒ポイント ※24時間体制で運営
12月1日(火)	1例目【日向市】	23名	
12月2日(水)	2例目【都農町】	11名	1
12月3日(木)	3例目【都城市】	9名	1
12月4日(金)			
12月5日(土)			
12月6日(日)			
12月7日(月)	4例目【都城市】	6名	1
12月8日(火)	5例目【小浜市】	6名	1
12月9日(水)			
12月10日(木)			
12月11日(金)			
12月12日(土)			
12月13日(日)			
12月14日(月)	6例目【宮崎市】 7例目【日向市】	本部運営	2
12月15日(火)			
12月16日(水)			
12月17日(木)			
12月18日(金)			
12月19日(土)	8例目【宮崎市】	本部運営	3
12月20日(日)			
12月21日(月)			
12月22日(火)			
12月23日(水)			
12月24日(木)			
12月25日(金)			
12月26日(土)			
12月27日(日)			
12月28日(月)			
12月29日(火)			
12月30日(水)	9例目【小浜市】	6名	4
12月31日(木)			
1月1日(金)			
1月2日(土)			
1月3日(日)			
1月4日(月)			
1月5日(火)			
1月6日(水)			
1月7日(木)			
1月8日(金)			
1月9日(土)			
1月10日(日)			
1月11日(月)			
1月12日(火)			
1月13日(水)			
1月14日(木)			
1月15日(金)			
1月31日(日)	10例目【新富町】	8名	5
2月1日(月)			
2月2日(火)			
2月3日(水)			
2月4日(木)			
2月5日(金)			
2月6日(土)			
2月7日(日)	11例目【新富町】	25名	6
2月8日(月)			
2月9日(火)			
2月10日(水)			
2月11日(木)			
2月12日(金)			
2月13日(土)			
2月14日(日)			
2月15日(月)			
2月16日(火)			
2月17日(水)			
2月18日(木)			
2月19日(金)			
2月20日(土)			
2月21日(日)			
2月22日(月)			
2月23日(火)			
2月24日(水)			



中部管内に設置した消毒ポイント



※各数字のポイント名称は、前頁「中部農林振興局の動き」の「消毒ポイント」欄を参照

- 消毒ポイント設置期間 69日間
- 消毒台数 約6,700台
- 総動員数 延べ889名

中部地連協
宮崎市・国富町・綾町
JA宮崎中央・JA綾町・NOSAIみやざき

消毒ポイント従事者からのコメント

午前0時から、通信用の携帯電話も凍結するほどの寒さの中、高岡ライスセンター消毒ポイントで、国富町、NOSAIみやざきの方と作業を行いました。

新型コロナウイルス感染症の流行と重なり、緊急事態の中で、所属を超えての協働作業でしたが、ネットワークも広がり、大変貴重な経験となりました。

スポーツ指導センター 指導主事 谷口 誠

深夜・早朝における消毒作業は寒さとの戦いでしたが、関係車両の方からの「お疲れ様」「寒いけどがんばって」の声は、冷えた体を心の芯から温めてくれました。

次から次へと消毒ポイントに訪れる車両の消毒作業を通じて、養鶏関係者の「絶対に発生させない」という緊張感がひしひしと伝わってきました。現在管内の情勢は落ち着いてきていますが、二度と発生しないことを祈るばかりです。

国富町農林振興課 副主幹 大塚 浩太郎

今回の消毒ポイントでは、コロナ禍の状況により、感染防止対策を行いながらの作業だったため、いつも以上に気を遣い大変でした。

深夜の作業による寒さや待機室での息苦しさに加え、山奥のポイントだったために動力噴霧器が凍り、作業に支障をきたすこともありました。

しかし、県・市・JAが連携を取りながら、生産者の皆様のため、また一刻も早く終息させるために一丸となっていたと思います。

JA宮崎中央 総務部 松田 浩太郎

殺処分などの防疫作業に御協力いただいた国・市・JA・自衛隊等の皆様
不眠不休で埋却作業に従事いただいた建設業協会の皆様
極寒の中、24時間体制で消毒ポイント運営に御協力いただいた中部地連協・市町・JAの皆様
車両消毒に御協力いただいた畜産関係者の皆様
消毒ポイントでの防疫作業に御理解・御協力いただいた地域住民の皆様

御協力ありがとうございました

ひなたGAP

令和2年度、中部管内では2校の県立高等学校が「ひなたGAP」の認証を受けました。認証を受けた2校から、その取組等についてお話をうかがいました。

良い農業の実践
GAP (Good Agricultural Practice) の定義

- ✓ 環境に配慮されている
- ✓ 労働者の安全が確保されている
- ✓ 食品安全が確保されている

県立本庄高等学校

スイートコーンでの取得

ひなたGAP認証取得までの軌跡

Q1 「ひなたGAP」の認証取得を目指したきっかけは？

「これからの農業の常識」について生徒と職員が一緒になって考え実践する機会だと捉えたからです。

Q2 どのような科目に取り組まれたのですか？

2年生では「農業と環境」の中でひなたGAPの意義や効果について、3年生では「総合実習」の中で本校農場の実態把握と課題解決に向けた取組についての授業を行ってきました。

Q3 具体的にはどのようなことをしてきたのですか？

- (1) 農場のすぐ脇には水路があるため、転落防止のためのロープを張ったり、スイートコーンが害獣被害に遭わないよう電柵を設置したりしました。また、電気に触れると危ないため「危険防止」のための標示をしました。
- (2) 収穫の際には、収穫専用のコンテナを使ったり、出荷調整の際には、清潔な作業テーブルで作業を行ったりするなど衛生面に気をつけながら行いました。



中部農林振興局職員による講話(R元.11)



GAP指導者養成のための会場提供



薬品庫など適切な場所への移動



Q4 認証取得にあたり、苦勞した点は？

ひなたGAPの基準をクリアするためにいくつかの課題を解決しなければなりません。一度取り組むことにより作業工程のムダが省けたり、作物やこれまであまり意識していなかった作業従事者の「安心・安全」を意識したりするなど、新たな視点で授業が展開できるようになりました。

Q5 認証されたスイートコーンのセールスポイントは？

小規模での作付けですが、初年度は農薬を一切使わず、旬の時期に旬のおいしさを味わうことができました。

2年目の初夏にも期待してください！

※品種：ゴールドラッシュ

Q6 今後の展望は？

本校の主力作物でもある水稻(コメ)でひなたGAP認証取得を目指したいです。



GAP認証書授与式(R2.9)



危険標示



収穫作業(R2.6)

ポインセチアでの取得

消費者に美しいポインセチアだけではなく、安心・安全もお届けしようとGAP取得に取り組みました。同時に、農業という産業では、とかく忘れられがちな職場環境の改善というテーマを生徒に意識づけるという教育的効果も狙いました。

生徒たちは、「これからは、見た目の美しさだけでなく、自宅の部屋に安心して置いていただけるポインセチアをお届けできるようになった」と自信を持って語っています。



切り花での取得

新型コロナウイルスの影響もあり、花の消費や促進策を考えて、ひなたGAP認証に取り組みました。

苦勞した点は、農作業に関わる仲間や職員の意識を変えることでした。5S運動のポスターを見える場所に掲示し、みんなで意識しながら、点検簿等、色々と確認をしてきました。

認証品目は、宮崎中央花き品目である「トルコギキョウ」・「ダリア」をはじめ、ホオズキ、カーネーションの4種類です。中でも、以前NHK番組プロフェッショナル仕事の流儀で紹介された、「ダリアの神様」鷲澤幸治氏の育成品種は、とても力強く逞しい生命力を感じます。また、中部農業改良普及センターの職員の方々にも、相談や技術指導等協力を頂いております。

今後は、人が変わってもGAPの取り組みが継続していくように、更なる見える化と品質向上に努めていきます。
みやざきの花(宮農の花)をよろしくお願ひします。



水耕栽培トマトでの取得

総合実習などの専門教科において野菜栽培の学習に取り組む中で、安全・安心な野菜栽培に取り組みたいと思うようになりました。そこで「ひなたGAP」の存在を知り、取得を目指しました。認証品目はトマトです。本校の温室で水耕栽培を行っています。

農場の片付けや出荷調整室の整理整頓から始めました。また、農薬の管理簿や出荷に関する帳簿などを作成し、きちんと記入するようにしました。本校の農場の環境を知ることもできました。

今後も、地域の方々に信頼される、安全・安心なトマトを生産したいです。また、糖度が高くておいしいトマトの栽培にも挑戦したいと考えています。



中部地方連絡協議会を御紹介します！

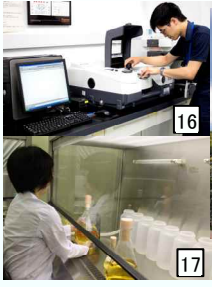
中部地方連絡協議会は、中部地区にある県の出先機関の連絡を密にし、地方行政の総合的運営を図るために設置された組織です。(会長:中部農林振興局長、副会長:宮崎県税・総務事務所長)
本誌に掲載されている鳥インフルエンザの消毒ポイント運営や新型コロナウイルス軽症者宿泊療養施設の運営をはじめ、県主催イベントにおける動員など、通常業務の範囲を超えて御協力いただいています。



No	所属名	業務内容
1	消費生活センター	消費者トラブルの解決支援と防止のため、消費生活相談や消費者啓発のための広報活動を行っています。
2	宮崎県税・総務事務所	県政運営の貴重な財源である県税の適正な賦課・徴収を行います。
3	自治学院	県の職員研修機関として、「自ら学び、成長する職員の育成」に向けた研修や支援を行っています。
4	消防学校	消防職員や消防団員の教育訓練を行います。
5	中央福祉こどもセンター	家庭の経済的なことやDV、女性の抱える悩み、こどもの虐待に関することなどの相談に対応します。
6	女性相談所	
7	きりしま寮	
8	中央児童相談所	
9	中央保健所	感染症対策、県民の健康づくりなど地域保健の重要な役割を担います。
10	衛生環境研究所	県民の安心・安全な生活を確保するため、細菌やウイルス、食品、環境汚染など公衆衛生の幅広い分野で検査や調査研究を行います。
11	身体障害者相談センター	身体障害者手帳の交付、身体の障がいに関する判定・相談のほか、高次脳機能障がいに関する相談・支援等に対応します。
12	県立こども療育センター	一人ひとりのこどもとその家族の幸せを願い、信頼される療育に努めます。
13	精神保健福祉センター	「心の健康」について幅広く相談に応じ、自立や社会復帰を目指します。
14	宮崎県動物愛護センター	人と動物が共に幸せに暮らせる社会を目指します。
15	計量検定所	タクシメーターや燃料油メーターなどの「正しい計量」で取引の安全を確保します。
16	工業技術センター	工業振興を図るため、工業分野の研究開発や技術指導、依頼試験等を行います。
17	食品開発センター	食品産業の振興を図るため、食品分野の研究開発や技術指導、依頼分析等を行います。
18	中部農林振興局	農林水産業の担い手育成、生産性向上への支援、水田のほ場整備や治山などの基盤整備などを行います。
19	総合農業試験場	農作物の新品種の開発・育成や効率的な生産技術の開発などを行います。
20	水産試験場	「儲かる水産業」を支えるため、水産技術開発や試験研究を行います。
21	宮崎家畜保健衛生所	家畜の衛生対策や畜産農家への支援、家畜伝染病の予防対策などを行います。
22	宮崎土木事務所	道路、河川、都市公園などに関する改良、維持管理、許認可事務を行います。
23	高岡土木事務所	
24	建設技術センター	建設技術者の研修や建設資材等の各種試験、産業開発青年隊の教育訓練を行います。
25	中部港湾事務所	宮崎市、高鍋町、新富町、川南町、都農町にある港湾、漁港の建設や管理を行います。
26	県立宮崎病院	高度医療や救急医療など全県レベルの高度急性期医療を担う中核病院として、良質で高度な医療を提供します。
27	中部教育事務所	児童生徒の学力向上や教員の授業力向上を図るため、学校や市町村教育委員会の支援を行います。
28	スポーツ指導センター	学校等の体育指導者の養成や競技スポーツ指導者の養成、地域スポーツクラブの支援を行います。
29	宮崎県教育研修センター	社会の変化等を踏まえ、教職員の資質向上及び指導力向上を図る研修や生涯学習・キャリア教育の支援を行います。
30	県立図書館	所蔵資料は約82万点！県の情報拠点として図書の閲覧・貸出や、郷土資料の収集・保存を行います。
31	県立美術館	郷土出身作家、本県にゆかりのある作品をはじめ、約4,200点の作品を収蔵。国内外の優れた作品の展示を行います。
32	宮崎県総合博物館	動物、植物、地質、考古、歴史、民俗に関する展示や講座を行います。
33	宮崎県埋蔵文化財センター	道路などの開発予定地で、遺跡の発掘調査を実施し、出土した土器や石器等の整理・収蔵作業と普及活動を行います。
34	宮崎北警察署	地域警察の最前線！管内の安全と安心のため、日々パトロールや取締り、各種捜査、防犯情報の発信などを行います。
35	宮崎南警察署	
36	高岡警察署	

中部地方連絡協議会 位置図

中部地区には**36**の出先機関があります。
いくつ知っていますか？



16

17



16 工業技術センター
17 食品開発センター



33

33 埋蔵文化財センター



19



スイートピー-新品種：真白麻呂

19 総合農業試験場

21 宮崎家畜保健衛生所

27 中部教育事務所



27



1

1 消費生活センター

32 宮崎県総合博物館

36 高岡警察署

29 宮崎県教育研修センター

23 高岡土木事務所

30 県立図書館
31 県立美術館

34 宮崎北警察署

- 5 中央福祉こどもセンター
- 6 女性相談所
- 7 きりしま寮
- 8 中央児童相談所
- 9 中央保健所
- 11 身体障害者相談センター
- 13 精神保健福祉センター

26 県立宮崎病院

- 2 宮崎県税・総務事務所
- 3 自治学院
- 18 中部農林振興局
- 22 宮崎土木事務所

25 中部港湾事務所



5,6,7,8



9,11,13

35 宮崎南警察署

10 衛生環境研究所



25

24 建設技術センター

4 消防学校



4

12 県立こども療育センター



14 宮崎県動物愛護センター

15 計量検定所

28 スポーツ指導センター



14



15

20 水産試験場



20

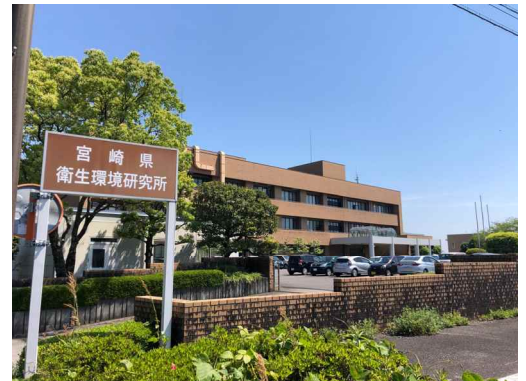


宮崎県衛生環境研究所

衛生環境研究所は、県内における保健衛生の向上及び環境の保全を図るため、微生物等の検査、食品や温泉等の検査、大気汚染や水質汚濁等の測定及び検査を行うとともに、これらに関する調査研究を行っています。



入口の様子。新型コロナウイルス感染症対策のため、入館を制限しています。



建物外観

表面の突起が**王冠**に似ていることから、ギリシャ語で王冠を意味する**コロナ**(corona)という名前なんだ。

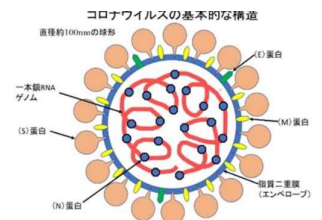
新型コロナウイルス感染症の検査

昨年、中国の武漢で確認され、現在、世界的に猛威を振るっている新型コロナウイルスは、感染力が強く、重症化すると救命が困難なウイルス感染症です。

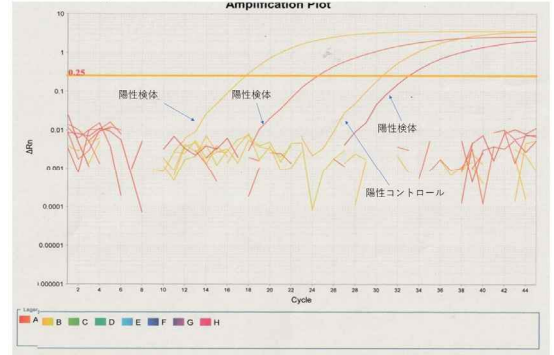
本県では令和2年3月4日に1例目の感染者が確認されて以降、令和3年1月31日時点で1,820名の感染者が発生しています。

現在、この感染症の原因であるウイルス(SARS-CoV2)の本県における行政検査は、当研究所、宮崎市保健所、県と契約した民間の検査機関が実施しています。

この行政検査は、国から示された検査方法に基づき、新型コロナウイルスの感染が疑われるヒトの検体(鼻咽頭ぬぐい液や唾液等)から遺伝子を抽出し、PCR法を用いて、新型コロナウイルスかどうかの検査を行います。



one-step RT-PCR法によるSARS-CoV-2 測定結果 (3/4陽性検体)



新型コロナウイルスPCR測定 増幅曲線

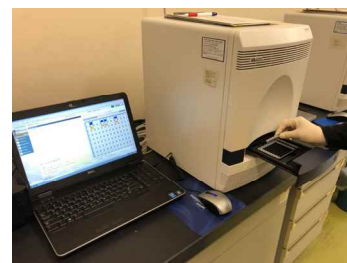
PCRとは、Polymerase Chain Reaction (ポリメラーゼ連鎖反応)の略で、DNAの複製を人工的に繰り返すことで、目的とするDNAを増やす技術だよ。



前処理の様子



新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、正確なPCR検査による感染者の早期探知に取り組んでいます。



リアルタイムPCRへの検体セット作業



新型リアルタイムPCRを含む4台のPCR設置状況

新型コロナ軽症者宿泊療養施設（宮崎ライオンズホテル）の運営



県では、新型コロナウイルス重症者への適切な医療提供を確保するため、宮崎市2か所、延岡市1か所、都城市1か所の計4か所で、民間宿泊施設を借り上げ、軽症者宿泊療養施設の運営を行っております。

このうち、中部地方連絡協議会では、宮崎ライオンズホテルの総括・ロジ班として運営に携わっています。

宮崎ライオンズホテル運営体制

- ・全体統括責任者(1名)
- ・総括・ロジ班(早番・中番・遅番 各1名)
- ・食事・生活支援・物資等配布回収班(早番・遅番・夜勤 各2名)
- ・保健医療班(看護師)

総括・ロジ班

- 宿泊療養者の受入・誘導、退室等の管理
- 宿泊者名簿等の管理、部屋割り等の調整
- 宿泊者に対する周知案内(館内放送・手紙等)、家族の差入品の管理
- 鍵の管理、急変時の県調整本部との連携
- 衛生資材の在庫管理、確保等
- 活動記録の作成、統括への報告

中部地連協
児湯地連協
南那珂地連協

食事・生活支援・物資等配布回収班

- 食事の手配及び食事内容の管理
- 日用品・消耗品、シーツ類の管理
- 宿泊者からの要望対応
- 居室への食事等の配布
- ゴミの回収
- 共用部分の清掃・消毒

宮崎市、国富町
日南市、串間市
西都市、高鍋町
新富町、川南町

従事者からのコメント

今回、新型コロナ感染者軽症者等宿泊施設である宮崎ライオンズホテルの総括・ロジ班に携わりました。

施設内の事務局には、全体統括責任者、総括・ロジ班、保健医療班、食事・生活支援班が置かれております。当初は福祉保健部の担当者から朝から晩までつきっきりで指導していただき業務を覚えめました。

総括ロジ班の主な業務は、宿泊者の受け入れと退所者の送り出しで、その合間に食事・生活支援班の食事配布、ゴミ回収の介助などを行いつつ、自分たちの業務を行います。

この2週間で印象に残ったことは、初めて感染者を目の前にしたときに緊張したことです。写真にあるように防護服を着用してエレベーターの前で受け入れますが、どきどきしながら説明をしたのを覚えています。後半は慣れてしまいましたが。

体力的に大変だったのが、汚染物のゴミを入れる医療ペールの蓋がとても堅くて、2日間で20箱ぐらい蓋締めをしていたら、手も赤く腫れ、腰痛になったことです。自分の体力の無さを感じたところでした。

最後に、この業務で大事なことは、チームワークですね。皆で協力し合って作業していかないと一日の流れが滞ってしまいます。このような動員に参加したのは初めてなので、良い経験ができたと思っています。

中部港湾事務所 総務課 副主幹 吉田 秀子

総括・ロジ班の1日の流れ

- 7:00 館内放送(検温・食事配布)、食事配布支援
- 随時 宿泊療養者の受入・誘導、退所手続き
- 12:00 館内放送(検温・食事配布)、食事配布等支援
- 13:00 館内放送(ゴミ回収)、ゴミ回収等支援
- 14:00 館内放送(運動)
- 随時 宿泊療養者の受入・誘導、退所手続き
- 18:00 館内放送(食事配布)、食事配布等支援
- 19:00 館内放送(ゴミ回収)、ゴミ回収等支援
- 20:00 館内放送(検温)
- 22:00 活動記録作成・統括責任者への報告



左 吉田さん(中部港湾事務所)
右 兵藤さん(西都土木事務所)

宮崎県森林土木協会による海岸県有林での環境保全活動について

令和2年11月20日、宮崎県森林土木協会による環境保全活動が海岸県有林内で実施されました。

当日は、宮崎支部・日南支部・串間支部から会員43名が参加し、藤兵衛中州県有林内のクロスカントリーコースの路面補修やコース周辺の草刈り、ゴミ拾いが行われました。

このクロスカントリーコースは、松林の中を巡る緑陰コースで、自然の起伏を生かした土の路面で、潮騒や緑あふれる景色を感じながら、ウォーキングやランニングを楽しむことができます。地域の方々はもちろん、あの青山学院大学駅伝部が合宿で使用するなど、幅広く利用されています。

しかし、自然の起伏を生かした土のコースであるがゆえに、降雨の影響などで表土が流れ出したり、水たまりができるなどして、コース利用者が利用しづらくなっていたことから、県森林土木協会が会員の技術と機材を用いて、ボランティアで路面の補修をしてくださいました。

活動は午前中で完了し、クロスカントリーコースは見違えるほど美しくなり、ウォーキングをされていた方もとても喜んでおられました。

この活動は昨年に引き続き今回2回目で、会員の方々もだいぶ慣れた様子で作業をされていました。

森林土木に携わる団体によるこのような環境保全活動は、美しいみやざきづくりの推進に役立つものと考えております。



路面補修の様子



草刈り



ゴミ拾い



森林土木協会のボランティアの皆様

森林浴をしながら
心身ともにリフレッシュ
してください！



[林務課]

クロスカントリーコース フェニックスコース

Cross Country Course - Phoenix Course

このクロスカントリーコースは、マツ林内を巡る緑陰のコースで、延長2,000mと3,000mの周囲コースです。自然の起伏を生かした土のコースで、潮騒や緑あふれる景色を感じながら、ウォーキングやランニングを楽しむことができます。
Go through the 2,000m or 3,000m circular cross country course under the shade of a pine tree forest. Maximizing the appeal of the natural inclines and declines, this course is ideal for walking or running while experiencing nature's greenery and the sounds of the nearby ocean.

○コース延長は、コースの内側30cmの地点を基準に計測しています。
The length of the course is measured 30cm in along the inside of the course.
○コースには、スタートから100mごとに距離表示板を設置しています。
There are signs every 100m showing the distance traveled.

トイレ Toilet

禁止事項 Prohibited matter

★管理者：宮崎県中部森林部森林課 TEL0985-26-7283
Management: Central Miyazaki Agriculture and Forestry Promotion Bureau Forestry Division